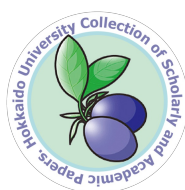




Title	北海道におけるパブリックアートの志向性の変遷に関する基礎的研究
Author(s)	西海, 俊佑; 森, 傑
Citation	学術講演梗概集, 2012, 867-868
Issue Date	2012-09-12
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/54895
Rights	日本建築学会. 本文データは学協会の許諾に基づきCiNiiから複製したものである.
Type	journal article
File Information	AIJ2012.5413.867-868.pdf



北海道におけるパブリックアートの志向性の変遷に関する基礎的研究

正会員 〇西海 俊佑^{*1}
同 森 傑^{*2}パブリックアート、公共空間、作品
志向性、地域性、まちづくり

1. 研究背景と目的

近年パブリックアート（以下 PA）が都市や地方に関わらず様々な場所で見受けられるようになった。本来アートは美術館等の施設内での公開展示が中心であったが、屋外や公共空間に展示されることで、人の目に触れる機会が増加し展示場所に広がり生まれた。その形態や表現方法あるいは設置場所の性質も多様化していると考えられる。

本研究では、北海道における PA を調査対象として、その設置状況や利用や管理等の変遷について俯瞰的に把握し、それらの傾向と実態を分析することを目的とする。

2. 調査方法と結果の概要

2-1. 調査方法と調査結果

北海道内にある全ての市町村（179 市町村）に対し、PA の基礎情報を得るための電話調査を行った。その結果、全 1124 の事例の情報が得られた。

2-2. PA の定義と事例選定

PA の定義は一般に「公共空間に存在する彫刻作品」とされるが解釈が様々あり明確に定義づける根拠法がないため本研究では PA^{注1)} を注の様に定義する。定義に合わない等の理由^{注2)} から数事例を除く 824 事例を対象事例として扱う。事例情報をまとめたデータベース概要を表 1 に示す。

3. 北海道内の設置傾向

まず PA の基礎データを用いて北海道内の設置数推移や地域ごとの設置状況など全体の傾向を俯瞰的に把握する。

表 1 全事例をまとめた PA データベースの概要

	作品名	制作年	制作者	作者出身	設置地域	設置場所	素材	写真
データベース	1124	908	908	780	1124	1124	869	868
有効事例数	843	843	793	633	843	843	716	691

3-1. 北海道内の設置数推移

北海道の PA 設置は 1950 年頃から始まり、1980 年から 1990 年にかけて設置数が大幅に増えている（図 1）。1980 年後半のバブル景気の影響で設置が多いと考えられる。

3-2. 地域毎の設置状況

図 1 は PA 設置が始まる 1950 年頃から 5 年おきに北海道全体の設置状況を示した図である。その 5 年で新たに PA が設置された地域を地図にプロットし、各図の左上に 5 年間で設置数の多い地域上位 3 つとその設置数を示した。

図 1 を見ると 1970 年頃までは札幌市や旭川市、帯広市など比較的人口の多い地域に設置が集中しているが、その後は各地方に設置が見られ始め、特に 1990 年以降は洞爺湖町や七飯町など比較的人口の少ない地域にも多数設置されたことがわかる。現在は札幌旭川間の JR 沿いの地域に設置が集中している一方で道東や道北にはほぼ設置がみられず、地域間での設置数の格差が顕著に表れた。

4. 分析

前章で得られた全体的傾向に付随して、全体傾向では把握できない様により実体的な変遷を明らかにするため、PA の志向性に注目して分析を行う。定義に従うと PA は設置される公共空間と彫刻作品自体でその性質が決定されると

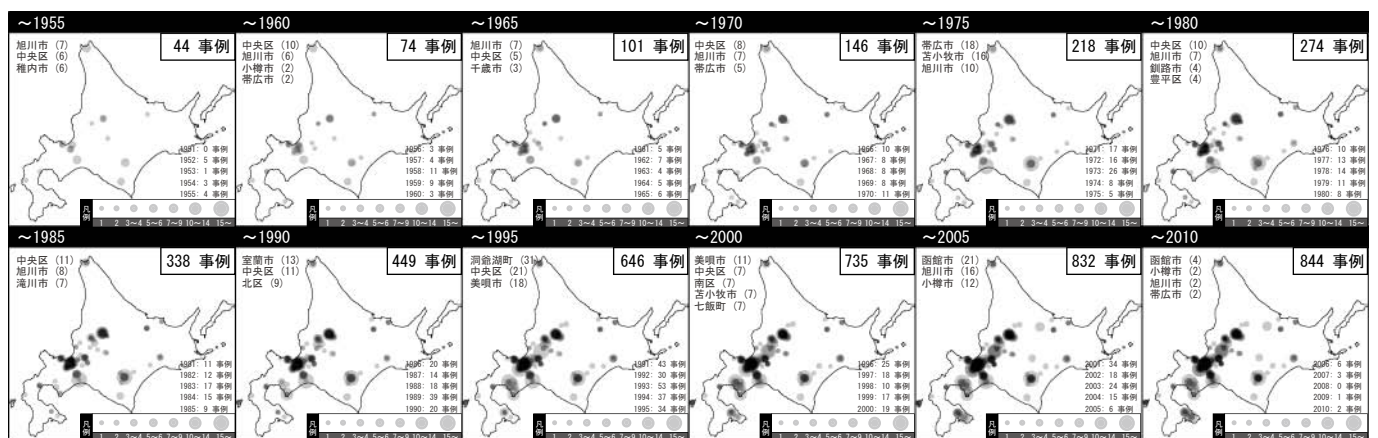


図 1 5 年毎にみた北海道内のパブリックアート設置状況

考えられるため、作品自体を示す「作品表現」と、設置される空間性質を示す「設置空間」に着目して分析を行う。

4-1. 作品表現の変遷

設置されたPAがどんな素材を用いた表現であるか（表現手法の変遷）、彫刻作品が何を表現しているか（作品モデルの変遷）を分析し作品表現の変遷を明らかにする。

4-1-1. 表現手法の変遷

有効事例の中から素材が明らかな716事例を抽出し、10年毎の変遷を表3左に示した。1960年頃まではブロンズ製が大半を占めるが、1970年以降は石材やステンレスの使用が見られ、使用素材が多様化していることがわかる。

4-1-2. 表現モデルの変遷

全有効事例を画像判断により4つに分類した。分類基準と結果を表2に、変遷を表3右に示す。1960年代まではパターン3-aの実在する人物像の設置が中心だが、1970年以降はパターン1の抽象彫刻の設置が急増した。1970年頃を境に作品の志向性が変化したと推測できる。

4-2. 設置空間の変遷

4-2-1. 設置場所の分類

データベース上の「設置場所」の情報は表記が様々であるため性質毎に分類する必要がある。設置場所を公園、施設、通りに分類した。分類基準と結果の概要を表4に示す。

4-2-2. 設置場所ごとの傾向

図2は縦軸に人口順に並んだ地域、横軸に年代をとり、設置数の多さに比例した大きさの点をプロットしたものである。公園のプロットはある地域や年代への集中が多いのに対し、施設や通りのプロットは離散的である傾向が表れた。公園におけるプロットの集中は1990年以降は人口の比較的少ない地域にもみられた。

5. 考察

本研究では調査によって得られた量的データに基づき北

海道内におけるPAの設置傾向と実態を明らかにした。PA設置開始当初とはPAの志向性が変化してきて、PA設置が全道各地に広がりつつある。そんな中、定山溪観光協会による河童をイメージキャラクターとして複数の作家と提携して河童のPAを定山溪の町中に設置する事例や、美唄市出身の作家安田侃が作品設置により地元に貢献しているアルテピアッツァ美唄の様な事例がみられた。このようにPAは設置が始まった当初の景観向上の目的から発展し、PAが期待される性質が変化していると考えられる。

注1) 公共空間に設置される彫刻作品と定義し、特に公共空間を一般市民が自由に入出入りできる空間、彫刻作品を彫刻・モニュメントの内、石碑や歌碑を除いたものとして定義する。
注2) 入場料のかかる芸術の森屋外美術館の作品は本研究の公共空間の定義に反するため除外する。また本研究は変遷を議論するため制作年が不明な事例は除外する。

表2 作品モデルの分類方法と分類結果

パターン1 (360 事例)	パターン2 (62 事例)	パターン3-a (58 事例)	パターン3-b (271 事例)
生物ではない彫刻 抽象彫刻	人物以外の生物の彫刻 具象彫刻	実在する人物の彫刻 具象彫刻	実在しない人物の彫刻 具象彫刻
写真			
起源・湖上に向かって 1995 年 洞爺湖町	ヨシヤルソカッパ 1990 年 札幌市南区	W.S. クラーク胸像 1926 年 札幌市北区	裸婦 1968 年 旭川市
分類	抽象彫刻: パターン1 具象彫刻	人物 実在する: パターン3-a 人物以外の生物: パターン2	実在しない: パターン3-b

表3 年代別にみた作品表現の変遷

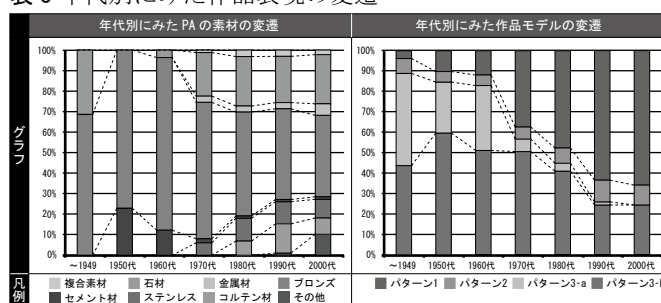


表4 設置場所の分類基準

設置場所分類図	A 公園	B 施設	C 通り
特徴	公園の敷地内に設置されているもの	施設の敷地内に設置されているもの	公園、施設の敷地外に設置されているもの
具体例	総合公園 緑地 広場 キャンプ場 etc	市民会館 商業施設 ビル 学校 etc	通り 橋 河川敷

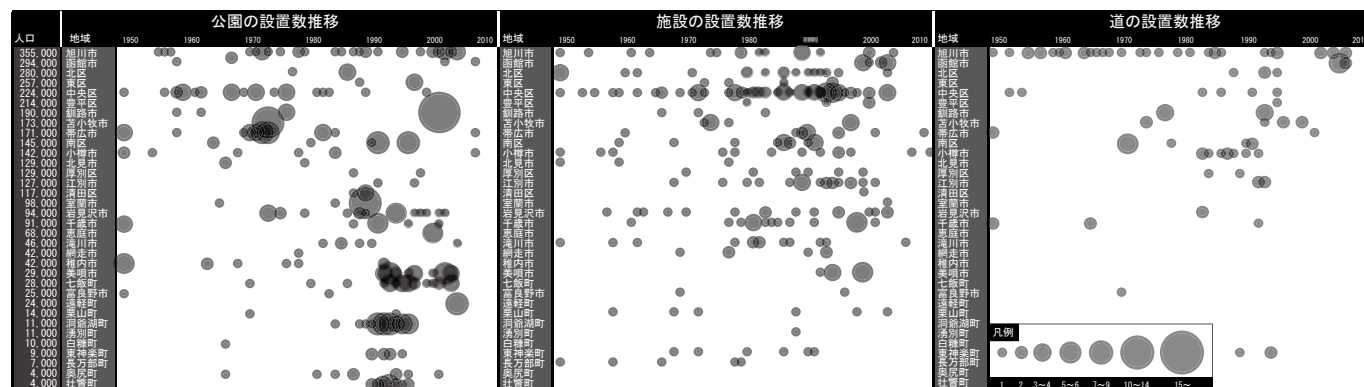


図2 地域別にみた設置場所毎の設置数分布図

*1 北海道大学大学院工学院 修士過程

*2 北海道大学大学院工学研究院 教授・博(工)

*1 Graduate Student, Graduate School of Eng., Hokkaido Univ

*2 Professor, Faculty of Engineering, Hokkaido Univ, Ph.D.in Eng.